

講義録レポート

講義録コード

03-22-6-01-[1] - [0] [3]

講 座	税 理 士	科目	簿記論
目標年	2022年合格目標	テキスト	-
コース	年内上級講義	回 数	第 (3) 回
用 途	ビデオブース WEB通信 ・ DVD通信 ・ Web フォロー ・ 音声DL フォロー		

収録日	2021 年	9 月	9 日
講師名	瀬戸川 豊 先生	板 書	3 枚 ※レポート含まず
		その他	6 枚 (名称/該当教材) 補助レジュメ
		ご案内	枚

授業構成	講義 退職給付の基礎 トレーニング問題20	⇒	講義 差異の償却方法 年金資産の積立超過 トレーニング問題22	⇒	講義 簡便法 トレーニング問題28
実施 テスト	【 】ミニテスト 【 】実力テスト 【 】その他 (				

◆ 退職給付の解答手順（その１）

① 期首の状況確認

年金資産 (期首公正評価額)	退職給付債務 (期首実際額)
退職給付引当金	
未認識差異【損失】	未認識差異【利得】

② 期首の退職給付費用の算定

勤務費用	期待運用収益
	差異【利得】の償却額
利息費用	退職給付費用
差異【損失】の償却額	

③ 期中の仕訳

① 退職一時金の支給

(借) 退職給付引当金	(貸) 現金 預金
-------------	-----------

② 年金掛金の拠出

(借) 退職給付引当金	(貸) 現金 預金
-------------	-----------

④ 前T/B退職給付引当金残高の算定

退職一時金支給額	期首残高
年金掛金拠出額	退職給付費用
前T/B残高	

⑤ 当期発生数理計算上の差異の算定

① 総額法

期末退職給付債務見込額 < 実際額 → 損失

期末退職給付債務見込額 > 実際額 → 利得

期末年金資産見込額 < 公正評価額 → 利得

期末年金資産見込額 > 公正評価額 → 損失

② 純額法

年金資産 (期末公正評価額)	退職給付債務 (期末実際額)
前T/B退職給付引当金	
未認識差異【損失】 (前期以前発生分)	未認識差異【利得】 (前期以前発生分)
当期発生数理差異	

⑥ 当期発生数理計算上の差異の償却（決算整理）

① 損失の場合

(借) 退職給付費用	(貸) 退職給付引当金
------------	-------------

② 利得の場合

(借) 退職給付引当金	(貸) 退職給付費用
-------------	------------

問題20

ワークシート

(単位：千円)

	期首 X30. 4. 1	退職給付 費用	給付／掛 金支払額	予測 X31. 3. 31	数理計算 上の差異	実 際 X31. 3. 31
退職給付債務		S I	P P			
年金資産		R	C P			
未積立退職給付債務		—	—		—	
未認識数理計算上の差異		A	—			
(退職給付引当金)					—	

S：勤務費用

A：未認識差異の費用処理額

I：利息費用

P：退職給付額（年金支給額と一時金支給額）

R：期待運用収益

C：年金掛金拠出額

問題20

ワークシート

(単位：千円)

	期首 X30. 4. 1	退職給付費用	給付／掛金支払額	予測 X31. 3. 31	数理計算上の差異	実際 X31. 3. 31
退職給付債務	(240,000)	S (8,000) I (4,800)	P 6,000 P 7,200	(239,600)	(1,000)	(240,600)
年金資産	40,000	R 600	C 20,000 P (6,000)	54,600	(500)	54,100
未積立退職給付債務	(200,000)	—	—	(185,000)	—	(186,500)
未認識数理計算上の差異	10,000	A (1,000)	—	9,000	1,500	10,500
(退職給付引当金)	(190,000)	(13,200)	27,200	(176,000)	—	(176,000)

- S：勤務費用
I：利息費用
R：期待運用収益
- A：未認識差異の費用処理額
P：退職給付額（年金支給額と一時金支給額）
C：年金掛金拠出額

◆ 差異の償却（費用処理）

差異の種類	償 却 時 期		償 却 方 法
	1 回 目	2 回目以降	
数 理 計 算 上 の 差 異	① 差異発生 年度の期末	毎 期 首	① 定額法 (発生年度ごとに区分)
	② 差異発生翌 年度の期首		② 定率法 (区分せずにまとめて)
会 計 基 準 変更時差異	会計基準変更 年度の期首		定額法のみ
過 去 勤 務 費 用	退職金規程の 改訂時(期中)		定額法のみ (1 回目は月割計算)

◆ 退職給付の解答手順（その2） ※企業年金制度のみを採用していると仮定

① 期首の状況確認

年金資産 (期首公正評価額)	退職給付債務 (期首実際額)
	前払年金費用
	未認識差異【利得】
未認識差異【損失】	

② 期首の退職給付費用の算定

勤務費用	期待運用収益
利息費用	差異【利得】の償却額
差異【損失】の償却額	退職給付費用

③ 期中の仕訳

年金掛金の拠出

(借) 退職給付引当金	(貸) 現金 預金
-------------	-----------

④ 前T/B残高の算定

前払年金費用	
期首残高	減少 0
増加 0	
	前T/B残高

退職給付引当金

年金掛金拠出額	期首残高 0
前T/B残高	退職給付費用

⑤ 前払年金費用勘定と退職給付引当金勘定の相殺

(借) 退職給付引当金	(貸) 前払年金費用
-------------	------------

⑥ 当期発生数理計算上の差異の算定

① 総額法

期末退職給付債務見込額 < 実際額 → 損失

期末退職給付債務見込額 > 実際額 → 利得

期末年金資産見込額 < 公正評価額 → 利得

期末年金資産見込額 > 公正評価額 → 損失

② 純額法

年金資産 (期末公正評価額)	退職給付債務 (期末実際額)
未認識差異【損失】 (前期以前発生分)	⑤ 相殺後の 前払年金費用
当期発生数理差異	未認識差異【利得】 (前期以前発生分)

⑦ 当期発生数理計算上の差異の償却（決算整理）

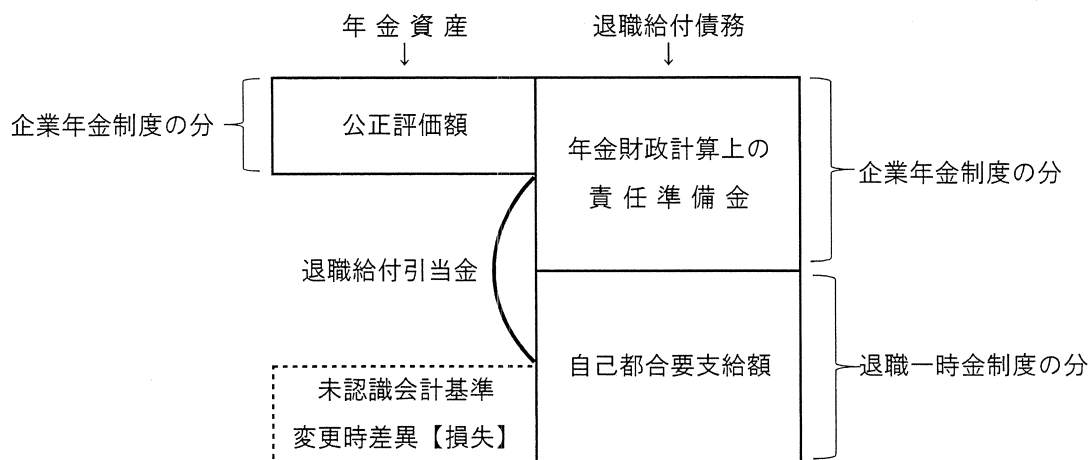
① 損失の場合

(借) 退職給付費用	(貸) 前払年金費用
------------	------------

② 利得の場合

(借) 前払年金費用	(貸) 退職給付費用
------------	------------

◆ 退職給付の簡便法



〔簡便法の特徴点〕

- ① 退職給付引当金の繰入は期末に差額補充法により行う。
- ② 数理計算上の差異や過去勤務費用は生じない。
生じる差異は会計基準変更時差異のみ。

税 理 士 講義録	コース講義等	年内上級講義	科目	簿記論	回数	第3回
-----------	--------	--------	----	-----	----	-----

配布物	★テスト類： []	講師	瀬戸川 先生
	★その他の配布物1： []		
	★その他の配布物2： []		

黒 板 内 容

問題 20

期首の状況

年 40,000	退 240,000
190,000	
10,000	0



退職給付費用

勤 8,000	期 600
	0
利 4,800	
1,000	13,200

期末の状況(純額法)

退職給付引当金 %

7,200	首 190,000
20,000	
	13,200
前 % 176,000	

年 54,100	退 240,600
176,000	
9,000	
(1,500)	0

ページ数 総ページ数
(2) / (3)

税 理 士 講義録	コース・講義等	年内上級講義	科目	簿記論	回数	第3回
-----------	---------	--------	----	-----	----	-----

配布物	★テスト類： []	講師	瀬戸川 先生
	★その他の配布物1： []		
	★その他の配布物2： []		

黒 板 内 容

問題22

期首の状況

年 160,000	退 137,600
	(21,950)
0	450

退職給付費用

勤 12,300	期 6,400
	50
利 6,880	12,730
0	+ 100

前払年金費用

首 21,950	0
0	前払 21,950

相殺後 前年 20,220

退職給付引当金 $\Delta 100$

11,000	首 0
前払 1,730	12,730

期末の状況(純額法)

年 171,920	退 152,300
	20,220
0	400
(1,000)	

税 理 士 講義録	コース・講義等	年内上級講義	科目	簿記論	回数	第3回
-----------	---------	--------	----	-----	----	-----

配布物	★テスト類： []	講師	瀬戸川 先生
	★その他の配布物1： []		
	★その他の配布物2： []		

黒 板 内 容

問題 28

首 150,000	首 180,000
末 185,000	末 201,000
首 161,600	
末 (266,840)	
首 (272,400)	首 404,000
末 245,160	末 496,000

退職給付引当金 %	
30,000	首 161,600
60,000	
	0
前 71,600	
+195,240	
↓	
後 266,840	